



建築設備技術遺産

認定第 29 号 ホーム分電函(BBK-3)

管理者：河村電器産業株式会社

所有者：河村電器産業株式会社

昭和 20 年代の住宅の引込口には過電流保護の手段として磁器製のカットアウトスイッチ（ヒューズ付）が使われていた。当時は木板の上にノップ碍子やクリートによって電線を固定し、注文生産によって組み立てていた。この使用では、ホコリなどによる保守性、注文生産のための納期の問題点等が多くあった。

そこで、これらの問題を解決するために、安全性を最優先に考え、専用ボックス（鉄製）にカットアウトスイッチを収納した分電函が開発された。このことにより、保守性、生産性を高めることができた。昭和 30 年後半のことであった。

昭和 40 年代には、いわゆる 3C 時代を迎え、住宅の配線回路も増え、カットアウトスイッチは配線用遮断器（ノーヒューズブレーカ）に替り、鉄製のボックスは合成樹脂製のキャビネットに替り安全性・利便性が大きく向上した。

その後の家庭電化の進展に伴い、このキャビネットには新たに漏電遮断器が組み込まれ、感電、火災防止等の電気安全に大きく寄与し、現在に至っている。今回、申請された分電函は現在の住宅用分電盤の原型となったものであり、建築設備技術遺産としての認定に値するものである。



初代 ホーム分電函